

医療環境にある子供や家族への療養支援に関する実態調査

【療養支援票 B：療養支援を実施しているが、療養支援専門職を配置していない病院向け】

想定される回答者：医療職、療養支援専門職

本調査においては、次に掲げる業務のうち1つ以上を実施している場合を、療養支援を実施しているものとして取り扱います。

- ① プレパレーション
- ② ティーチング（入院、疾患、治療など）
- ③ デистраクション（処置、検査、痛みなど）
- ④ 治癒的あそび

※詳細は「回答の手引き」をご参照ください。

本調査では、子供及び家族への療養支援を専門に行う資格として、以下の3資格を総称して「療養支援専門職」とします。

- ・チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）
- ・ホスピタル・プレイ・スペシャリスト（HPS） ※
- ・子ども療養支援士（CCS）

※HPSは、英国の養成課程修了者及び日本ホスピタル・プレイ協会養成研修修了者いずれも含まれます。

1. 療養支援専門職の認知度

問1 【療養支援専門職の認知度】

療養支援専門職について、どの程度ご存知ですか。（一つ選択）

- ☐ 1. 資格の名称を聞いたこともなく、内容も知らない
- ☐ 2. 名称は聞いたことはあるが、専門性・役割等は知らない
- ☐ 3. 名称を聞いたことがあり、専門性・役割等についても知っている

2. 療養支援を実施する職員の雇用・配置状況

問2 【療養支援を実施している職種】

子供・家族に対し療養支援を行う職種の実人数をお答えください。（数値回答）

※「専任」とは、業務の大部分が療養支援の実施である職員を指します。

※「0人」の場合は「0」と記入ください。不明な場合は空欄としてください。

	常勤		非常勤	
	専任	兼任	専任	兼任
1. 医師	人	人	人	人
2. 看護師	人	人	人	人
3. 心理職（臨床心理士・公認心理師）	人	人	人	人
4. 保育士	人	人	人	人
5. 医療ソーシャルワーカー	人	人	人	人
6. リハビリ職（OT/PT等）	人	人	人	人
7. その他医療職（ ）	人	人	人	人
	専任	兼任		
8. 外部委託・ボランティア	人	人		

3. 療養支援実施体制

問3 【療養支援の実施方法】

子供・家族に対する療養支援の実施方法として、最も近いものをお選びください。（一つ選択）

- ☐ 1. 多職種チームで実施している
- ☐ 2. 一部のケースで多職種チームで実施している
- ☐ 3. 主に単一職種が実施している
- ☐ 4. 明確な体制はなく、ケースに応じて柔軟に対応している
- ☐ 5. その他（ ）

問4 【療養支援チームの編成方法】

子供・家族に対する療養支援を実施している職員の編成方法として、最も近いものをお選びください。（一つ選択）

- ☐ 1. 専任チームとして常設されている
- ☐ 2. 特定部署（病棟等）単位で構成されている
- ☐ 3. 必要時に関係職種が集まる連携型（非固定）
- ☐ 4. ケースごとに担当職種が協力する形式
- ☐ 5. その他（ ）

4. 療養支援スタッフ採用経緯等

問 5 【療養支援開始時期及び療養支援の専任職員を配置した時期】

①療養支援開始時期と②療養支援の専任職員を初めて配置した時期を教えてください。（数値入力）

※兼任職員のみの場合は②の回答は不要です。

※西暦でご記入ください。

①療養支援開始時期	年
②療養支援の専任職員を初めて配置した時期	年

問 6 【療養支援の専任職員の確保方法】

療養支援の専任職員の確保方法を教えてください。（当てはまるもの全て選択）

※兼任職員のみ場合は回答は不要です。

- ☐ 1. 既存職員を異動させ、担当として配置した
- ☐ 2. 新たに職員を採用した
- ☐ 3. 外部人材（ボランティア・NPO等）を活用した
- ☐ 4. その他（ ）

問 7 【療養支援の専任職員配置の背景】

療養支援の専任職員を採用・配置した経緯を教えてください。（当てはまるもの全て選択）

※兼任職員のみ場合は回答は不要です。

- ☐ 1. 患者等のニーズがあった
- ☐ 2. 支援の質の向上のため
- ☐ 3. 院長・小児科長等が積極的に推進
- ☐ 4. 規定の要件充足のため（例：がん拠点病院等）
- ☐ 5. その他（ ）

5. 療養支援の対象患者

問 8 【療養支援の対象患者】

① 貴病院における療養支援の対象患者として、当てはまるものをお選びください。（一つ選択）

- ☐ 1. 特定の患者に限定せず広く実施している
- ☐ 2. 特定の患者に限定して実施している

② 「2. 特定の患者に限定して実施している」をお選びいただいた場合は、対象患者として当てはまるものを全てお選びください。

（当てはまるもの全て選択）

- ☐ 1. 初めて手術（特に日帰り手術含む）を受ける患者
- ☐ 2. 侵襲的な検査・処置（痛みや恐怖を伴う）を受ける患者
- ☐ 3. 小児集中治療室（ICU・PICU）に入院する患者
- ☐ 4. 小児がん（血液腫瘍含む）で治療を受けている患者
- ☐ 5. 長期入院（概ね1か月以上）となる患者
- ☐ 6. 強い不安・恐怖・ストレス反応が見られる患者
- ☐ 7. 慢性疾患（糖尿病、心疾患、喘息等）で継続治療が必要な患者
- ☐ 8. 頻回入院や再入院を繰り返す患者
- ☐ 9. 発達障害・神経発達症など特別な配慮が必要な患者
- ☐ 10. 外科的治療（手術前後）を受ける患者（一般）
- ☐ 11. 救急搬送・急性期医療を受ける患者
- ☐ 12. 終末期医療・緩和ケアの対象患者
- ☐ 13. グリーフケアが必要な患者・家族
- ☐ 14. 心理的ケアを特に必要とする患者（抑うつ・トラウマ反応等）
- ☐ 15. 保護者・家族への支援が必要なケース
- ☐ 16. きょうだい支援が必要なケース
- ☐ 17. 被虐待が疑われる患者
- ☐ 18. その他（ ）

6. 療養支援の活動内容と効果

問 9 【療養支援の活動内容】

令和7年度（2025年4月～2026年3月）1年間で実施した療養支援の内容とその件数を教えてください。

※不明な場合は「空欄」、実施していない場合は「0」とご記入ください。

※「4. 治癒的遊び」：子供が入院環境において感じるストレス・不安などに焦点を当て、遊びを通して支援すること。

1. プレパレーション	件
2. ティーチング（入院、疾患、治療など）	件
3. ディストラクション（処置、検査、痛みなど）	件
4. 治癒的遊び	件
5. 家族支援	件
6. きょうだい支援	件
7. グリーフ・グリーブメント	件
8. フォローアップ	件
9. 退院・復学支援	件
10. その他（ ）	件

問 10 【療養支援の効果】

令和7年度（2025年4月～2026年3月）1年間で実施した療養支援を振り返って、療養支援を実施することによる効果として、①～④それぞれにおいて、当てはまる選択肢を全てお選びください。（当てはまるもの全て選択）

①子供に対する効果

- | | |
|--|---|
| ☐ 1. 子供の発達支援の促進 | ☐ 7. 子供の自身の身体・病状への理解促進 |
| ☐ 2. 子供の日常的安心感・心理的安全性の向上 | ☐ 8. 子供の苦痛・恐怖心・ストレスの軽減 |
| ☐ 3. 子供の感情表出の促進 | ☐ 9. 子供の苦痛・恐怖心・ストレスへの対処の促進 |
| ☐ 4. 子供の情緒的回復・安定の促進 | ☐ 10. 子供の社会・地域・学校等とのつながりの維持・促進 |
| ☐ 5. 子供の医療・治療・医療機器への親しみやすさの向上 | ☐ 11. 子供の喪失体験への情緒的な支援の促進 |
| ☐ 6. 子供の医療体験に向けた心の準備の促進 | ☐ 12. 子供に対する効果として上記に該当するものはない |

②家族・きょうだいに対する効果

- | | |
|---|---|
| ☐ 1. 家族・きょうだいの子供の反応等への理解の促進 | ☐ 5. きょうだいへの心理社会的支援の促進 |
| ☐ 2. 家族・きょうだいの子供の支援への参加の促進 | ☐ 6. 家族・きょうだいの悲嘆・喪失体験への支援 |
| ☐ 3. 家族・きょうだいの対処能力の向上 | ☐ 7. 家族・きょうだいに対する効果として上記に該当するものはない |
| ☐ 4. 家族・きょうだいと医療者とのコミュニケーションの促進・改善 | |

③他職種・病院組織に対する効果

- | | |
|---|--|
| ☐ 1. 多職種連携・職種間の役割分担の促進 | ☐ 6. スタッフの心理的負担の軽減 |
| ☐ 2. 他の職種の子供・家族への理解促進 | ☐ 7. 子供が親しみやすい院内環境の整備の促進 |
| ☐ 3. 他の職種と子供・家族とのコミュニケーションの促進・改善 | ☐ 8. 患者・家族中心の医療の促進 |
| ☐ 4. アセスメントの質の向上 | ☐ 9. 支援の質の向上・標準化 |
| ☐ 5. 治療・処置の円滑化（負担の減少、処置時間の短縮等） | ☐ 10. 他職種・病院組織に対する効果として上記に該当するものはない |

④退院後の効果

- | | |
|---|---|
| ☐ 1. 再入院や救急受診の減少 | ☐ 6. 自己効力感（自分でできるという感覚）の向上 |
| ☐ 2. 治療（服薬・通院等）の継続性の向上 | ☐ 7. 学校・園生活への復帰の円滑化 |
| ☐ 3. 在宅療養への適応の向上 | ☐ 8. 日常生活の安定 |
| ☐ 4. 医療や病気に対する理解の向上 | ☐ 9. 退院後の効果として上記に該当するものはない |
| ☐ 5. 医療に対する不安や恐怖の軽減 | |

問 11 【療養支援の効果（自由記述）】

療養支援の効果として貴病院で**実感されていること**を、①子供に対する効果、②家族・きょうだいに対する効果、③他職種・病院組織に対する効果、④退院後の効果について、自由に記入してください。（前問で挙げている項目を含めていただいても結構です。箇条書き形式で、具体的・簡潔にご記入ください）

①子供に対する効果	（例）MRI検査前にプレパレーションを実施したことで、鎮静剤を使用せず検査を完了できた。 ・ ・ ・
②家族・きょうだいに対する効果	（例）保護者の不安やストレスが軽減し、医療者との相談がしやすくなった。 ・ ・ ・
③他職種・病院組織に対する効果	（例）医師・看護師が治療や看護に専念しやすくなった。 ・ ・ ・
④退院後の効果	（例）外来受診や継続治療への抵抗感が軽減した。 ・ ・ ・

7. 療養支援の課題

問 12 【療養支援の実施上の課題】

子供・家族への療養支援を実施する際の課題を教えてください。（当てはまるもの全て選択）

- | | |
|--------------------------|-----------------------------------|
| ☐ | 1. 療養支援に対応する人員や時間が不足している |
| ☐ | 2. 療養支援に関する専門的知識・スキルや研修機会が不足している |
| ☐ | 3. 療養支援の役割分担が明確ではない |
| ☐ | 4. 多職種間の連携・情報共有が十分でない |
| ☐ | 5. 療養支援に必要な環境（スペース等）が不足している |
| ☐ | 6. 療養支援の対象患者や優先順位の設定が難しい |
| ☐ | 7. 院内の理解・協力（医師・管理者等）が十分でない |
| ☐ | 8. 療養支援の効果を評価・可視化することが難しい |
| ☐ | 9. 療養支援に関する標準的な手順・ガイドラインが整備されていない |
| ☐ | 10. 現状の体制で大きな課題はない |
| ☐ | 11. その他（ <input type="text"/> ） |

問 13 【療養支援専門職を配置しない理由】

療養支援専門職を配置しない理由を教えてください。（当てはまるもの全て選択）

- | | |
|--------------------------|-----------------------------------|
| ☐ | 1. 療養支援専門職の確保が困難であるため |
| ☐ | 2. 人件費等の財政的負担が大きい |
| ☐ | 3. 専任職を配置するほどの業務量ではないと判断しているため |
| ☐ | 4. 既存の職種（看護師・心理職・保育士等）で対応可能であるため |
| ☐ | 5. 多職種チームで役割分担することで対応できているため |
| ☐ | 6. 外部資源（ボランティア・外部団体等）で代替しているため |
| ☐ | 7. 療養支援専門職の役割や効果に関する認識・理解が十分でないため |
| ☐ | 8. 院内での優先順位が高くないため |
| ☐ | 9. 診療報酬や制度上の裏付けがないため（収益に結びつきにくい） |
| ☐ | 10. その他（ <input type="text"/> ） |

8. 今後の意向

問 14 【療養支援専門職の配置の意向】

療養支援専門職の配置について、貴病院の今後の意向を教えてください。（一つ選択）

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| ☐ | 1. 配置する予定がある |
| ☐ | 2. 配置に向けて検討中である |
| ☐ | 3. 配置するかどうかは未定だが、検討・情報収集をしている |
| ☐ | 4. 配置の必要性を感じているものの、検討等は行っていない |
| ☐ | 5. 特に配置の必要性を感じておらず検討もしていない |

9. その他

問 15 【療養支援の実施や療養支援専門職について】

子供・家族に対する療養支援や、療養支援専門職について、ご意見がありましたら自由に記入してください。（自由記述）

--

10. ご担当者様とヒアリング調査へのご協力の可能性

問 16 【担当者連絡先】

※集計・問い合わせ等のため、病院名・ご担当者様のお名前・メールアドレス・電話番号は必ずご記入ください。

ご協力よろしくお願いします。

病院名	
部署名	
ご担当者様お名前	
メールアドレス	
電話番号	

問 17 【ヒアリング調査協力可否】

アンケート調査に基づき、今後、ヒアリング調査を実施することを予定（30分～1時間程度、主にオンラインでの実施を想定）しています。ヒアリング調査にご協力いただくことは可能でしょうか。（一つ選択）

- | | |
|--------------------------|--------------|
| ☐ | 1. 協力可能 |
| ☐ | 2. 状況次第で協力可能 |
| ☐ | 3. 協力は困難 |